

古写真の活用プログラムの開発

1. 古写真の収集

ひとはくのコミュニティ・デザイン研究グループでは、過去の人と自然の共生風景を探ることを目的として、兵庫県内で撮影された古い写真「古写真」を収集しています。

個人宅の書棚の片隅に埋もれているアルバムに保管された、昭和期の何気ない写真であっても、里地・里山、街並みや建物、祭りや地域行事などが写っており、地域のかつての自然やまちの姿、暮らしぶりを知る重要な資料になります。

2. 古写真の収集方法

個人宅で所蔵する古写真は、大切な思い出のアルバムであることから、写真を一時的に貸与いただき、デジタルデータ化して返却し、そのデジタルデータの使用許諾をいただいた上で、資料として登録、活用を行っています。

3. 古写真の活用方法

①地域で展示する

古写真は、学術資料として研究者が利用するだけでなく、地域で収集した古写真を地域で展示することにより、その真価を発揮します。何気ない古写真の中に、地域の方だけがわかる「郷愁」や「価値の再認識」があり、古写真を展示して共有することは、地域コミュニティの形

成やまちづくりの基盤として非常に大切です。

②景観づくりへ活かす

地域のこれからの風景、景観を考える上で、過去の風景や建物が写る古写真は、重要な資料になります。古写真を未来の景観づくりに活かす取り組みをはじめています（図1）。

③まちづくりに活かす

毎年、ひとはくと協働で古写真展を開催する佐用町三河地域では、地域のまちづくりの計画に、古写真を使ってまちを知る活動を明記しています（写真1）。平成26年度は、ひとはくに実習に来た大学生と地域の方で、古写真に写る風景の現在の様子の写真撮影と、古写真にまつわるエピソード（記憶のテキストデータ）を収集する調査を実施しました（写真2、図2）。このような、ひとはくと地域が協働して、古写真を未来のまちづくりに活かす取り組みを各地で取り組んでいきたいと考えています。



図1 景観づくり計画の冊子（例、左）と、まちづくり計画の冊子（右）



写真1 佐用町三河地域づくり協議会での「みかわ古写真展」の様子



写真2 実習にきた大学生と地域の方で実施した調査の様子

古写真の風景	現在の風景	記憶のテキストデータ(例)
● 田植え・代掻きの風景 		- かつて田植えや代掻きなどは、集落の共同作業として行っていた - 代掻きには牛を使っていた - 一列にきれいに稲を植えるには、今はロープを張るが、昔は円柱状の木の枠で土に型をつけて植えていた - 古写真の背景の山に写る木々は、かつて薪材等に使うため伐っていたため、現在の木々より背丈が小さい
● 結婚式の風景 		- 昔の結婚式は、村の人みんなが参列してお祝いをした - 嫁ぎ先までの200mくらいのでこぼこ道を歩くのが大変だった - 昔の結婚式では、お嫁さんは「株」と呼ばれる集落内の同姓集団に挨拶回りをする「地家（じけ）まわり」をしていた - 昔の家はみんな茅葺だった

図2 古写真と現在の風景と記憶の収集結果の一例



古写真活用プロジェクト

代表者：大平和弘 分担者：田原直樹、藤本真里、赤澤宏樹、上田萌子
連携・協力団体：古写真提供者の皆さん、佐用町三河地域づくり協議会、三田駅北側周辺地区まちづくり推進連絡協議会 など

財源：部門研究費「古写真とその記憶等の収集による地域景観の評価に関する研究」、文科省「地（知）の拠点整備事業」等